

令和5年千葉県鉱工業指数年報の概況
(令和2年基準)

短期経済観測の資料とするため、毎月「千葉県鉱工業指数月報」を発行し、鉱工業の生産・出荷・在庫・在庫率指数を公表しています。
このたび、年間補正、基準年次及び季節指数の改定を行った上で、令和5年の1年間の動向を年報として公表しましたので紹介します。

統計課 商業労働・工業班
電話 043-223-2226

概況

— 生産・出荷・在庫は低下、在庫率は上昇 —

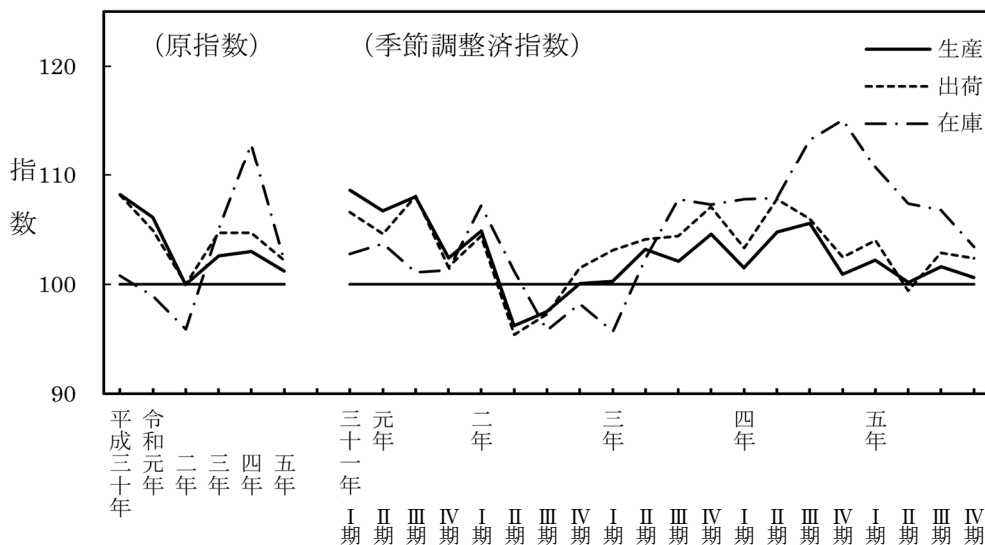
令和5年の千葉県鉱工業指数をみると、生産指数は、101.2で前年比△1.7%と3年ぶりの低下、出荷指数は、102.2で同△2.4%と3年ぶりの低下、在庫指数は、102.1で同△9.6%と3年ぶりの低下、在庫率指数は、108.6で同3.9%と2年連続の上昇となりました。

令和5年を四半期別にみると、生産指数は、Ⅰ期・Ⅲ期が上昇、Ⅱ期・Ⅳ期が低下となりました。出荷指数は、Ⅰ期・Ⅲ期が上昇、Ⅱ期・Ⅳ期が低下となりました。在庫指数は、Ⅰ期・Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期が低下となりました。在庫率指数は、Ⅰ期が上昇、Ⅱ期・Ⅲ期・Ⅳ期が低下となりました。

令和5年の生産と在庫の関係を在庫局面でみると、Ⅰ期は「在庫積み上がり局面」に位置し、Ⅱ期は「在庫調整局面」に位置し、Ⅲ期・Ⅳ期は「意図せざる在庫減局面」に位置しました。

(第1図・第2図・第1表参照)

第1図 千葉県鉱工業指数の推移 (令和2年=100.0)

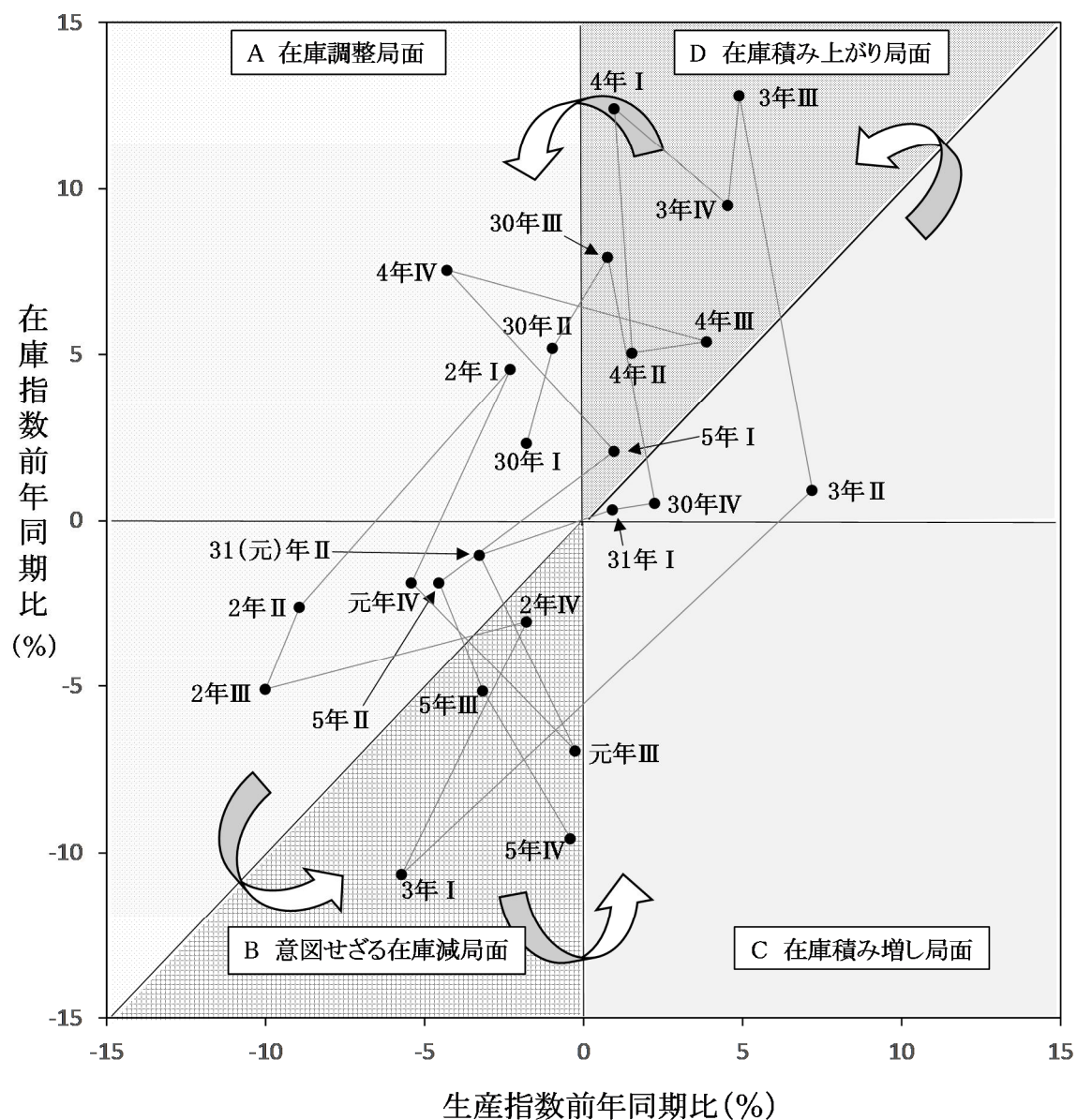


第1表 千葉県鉱工業指数及び前年比・前期比増減率

年・期 指 数	30 年	31 年 元年	令和 2年	令和 3年	令和 4年	令和 5年	令和5年			
							Ⅰ期	Ⅱ期	Ⅲ期	Ⅳ期
							(1~3月)	(4~6月)	(7~9月)	(10~12月)
生産指数	108.2	106.1	100.0	102.6	103.0	101.2	102.2	100.2	101.6	100.6
前年比・前期比(%)	0.1	△1.9	△5.7	2.6	0.4	△1.7	1.3	△2.0	1.4	△1.0
出荷指数	108.2	104.9	100.0	104.7	104.7	102.2	104.0	99.4	102.9	102.4
前年比・前期比(%)	0.2	△3.0	△4.7	4.7	0.0	△2.4	1.5	△4.4	3.5	△0.5
在庫指数	100.8	98.9	95.9	105.0	112.9	102.1	110.7	107.4	106.8	103.4
前年比・前期比(%)	0.5	△1.9	△3.0	9.5	7.5	△9.6	△3.8	△3.0	△0.6	△3.2
在庫率指数	91.7	94.0	100.0	96.5	104.5	108.6	115.7	107.8	106.1	105.1
前年比・前期比(%)	2.2	2.5	6.4	△3.5	8.3	3.9	1.0	△6.8	△1.6	△0.9

※暦年指数値は原指数、四半期指数値は季節調整済指数

第2図 生産・在庫の関係と在庫局面（在庫循環図）



各在庫局面の説明

- A** 在庫調整局面 …… 在庫過剰のため、生産を抑えて在庫を調整する。
(景気後退期)
- B** 意図せざる在庫減局面 …… 需要が回復し始めるが、生産は停滞しており、在庫が減少する。
(景気拡大初期)
- C** 在庫積み増し局面 …… 需要が供給より多くなると、生産を拡大し、在庫を積み増して需要に対応する。
(景気拡大期)
- D** 在庫積み上がり局面 …… 供給が需要より多くなると、在庫過剰になり在庫の積み上がりが起きる。
(景気後退初期)

(1) 生産の動向

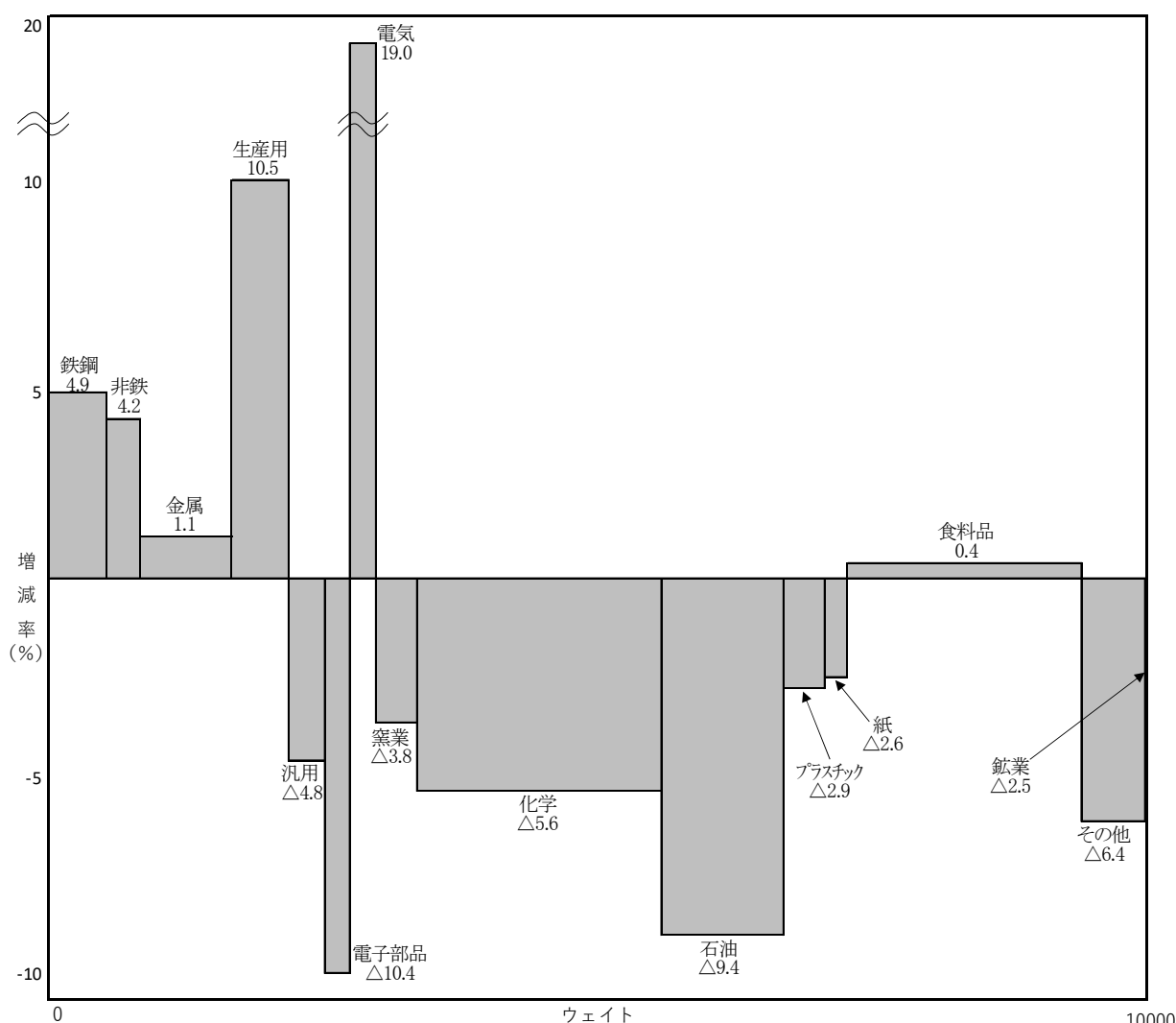
— 6業種が上昇, 9業種が低下 —

令和5年の生産指数は、101.2で前年比 Δ 1.7%と3年ぶりの低下となりました。

業種別にみると、電気・情報通信機械工業（前年比19.0%）、生産用機械工業（同10.5%）、鉄鋼業（同4.9%）等6業種が上昇し、電子部品・デバイス工業（同 Δ 10.4%）、石油・石炭製品工業（同 Δ 9.4%）、その他工業（同 Δ 6.4%）等9業種が低下しました。

（第3図参照）

第3図 業種別生産指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の生産指数の前年比増減率を表している。

2. グラフ中の数値は、各業種の前年比増減率である。

3. グラフ中の面積（部分）は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。

4. グラフ中の業種名は、次の通り略している。

[鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [生産用]…生産用機械工業

[汎用]…汎用・業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業 [電気]…電気・情報通信機械工業

[窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業

[プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業 [食料品]…食料品工業

[その他]…その他工業

(2) 出荷の動向

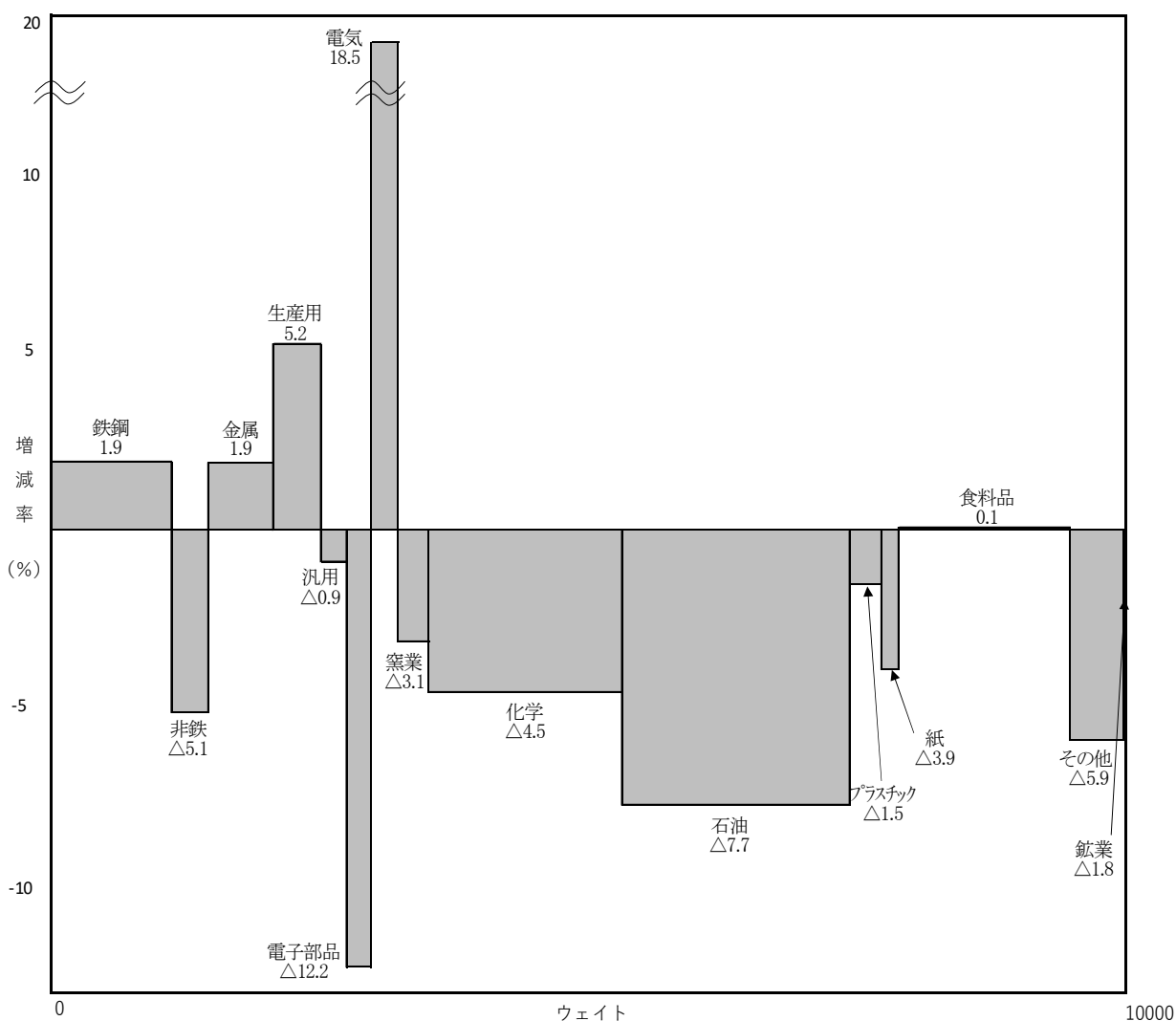
－ 5業種が上昇, 10業種が低下 －

令和5年の出荷指数は、102.2で前年比△2.4%と3年ぶりの低下となりました。

業種別にみると、電気・情報通信機械工業（前年比18.5%）、生産用機械工業（同5.2%）、鉄鋼業（同1.9%）等5業種が上昇し、電子部品・デバイス工業（同△12.2%）、石油・石炭製品工業（同△7.7%）、その他工業（同△5.9%）等10業種が低下しました。

（第4図参照）

第4図 業種別出荷指数の前年比増減率



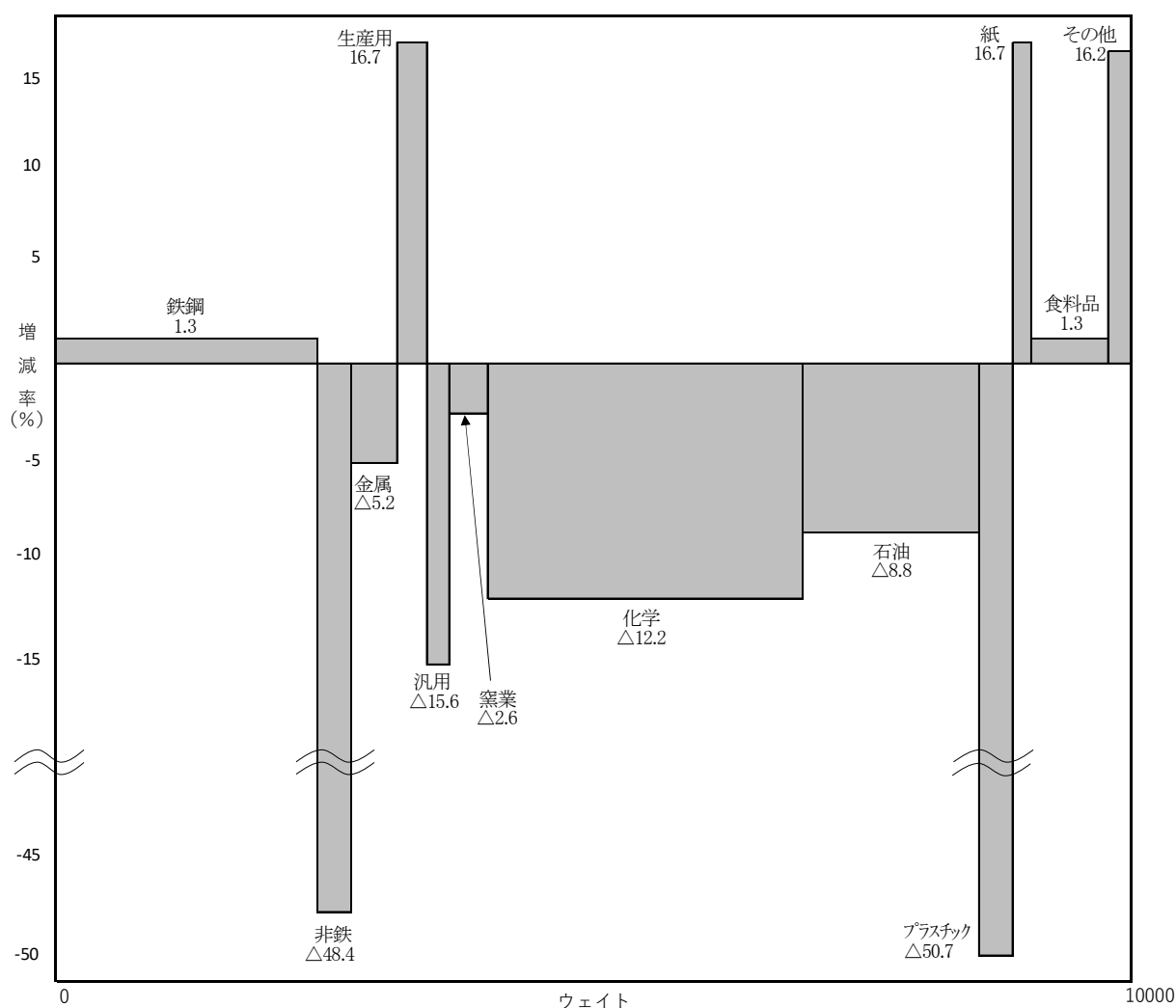
1. 横軸は業種別ウェイトの構成比、縦軸は各業種の出荷指数の前年比増減率を表している。
2. グラフの中の数値は、各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積(部分)は、各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は、次の通り略している。
 [鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [生産用]…生産用機械工業
 [汎用]…汎用・業務用機械工業 [電子部品]…電子部品・デバイス工業 [電気]…電気・情報通信機械工業
 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業 [石油]…石油・石炭製品工業
 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業 [食料品]…食料品工業
 [その他]…その他工業

(3) 在庫の動向

— 5業種が上昇, 7業種が低下 —

令和5年の在庫指数は、102.1で前年比△9.6%と3年ぶりの低下となりました。
業種別にみると、生産用機械工業（前年比16.7%）、紙・紙加工品工業（同16.7%）、
その他工業（同16.2%）の5業種が上昇し、プラスチック製品工業（同△50.7%）、
非鉄金属工業（同△48.4%）、汎用・業務用機械工業（同△15.6%）等7業種が低下
しました。（第5図参照）

第5図 業種別在庫指数の前年比増減率



1. 横軸は業種別ウェイトの構成比, 縦軸は各業種の在庫指数の前年比増減率を表している。
2. グラフの中の数値は, 各業種の前年比増減率である。
3. グラフ中の面積(■部分)は, 各業種の大小が指数全体の増減率に与える影響を表している。
4. グラフ中の業種名は, 次の通り略している。
 [鉄鋼]…鉄鋼業 [非鉄]…非鉄金属工業 [金属]…金属製品工業 [生産用]…生産用機械工業
 [汎用]…汎用・業務用機械工業 [窯業]…窯業・土石製品工業 [化学]…化学工業
 [石油]…石油・石炭製品工業 [プラスチック]…プラスチック製品工業 [紙]…紙・紙加工品工業
 [食料品]…食料品工業 [その他]…その他工業

利 用 上 の 注 意

1 基準時

令和2年（2020年）を基準年としています。

指数値は、令和2年＝100.0とした数量指数で表示し、ウェイトは令和2年の産業構造によって算出しています。

2 用語の表示

「鉱工業生産指数」，「鉱工業生産者出荷指数」，「鉱工業生産者製品在庫指数」，「鉱工業生産者製品在庫率指数」をそれぞれ「生産指数」，「出荷指数」，「在庫指数」，「在庫率指数」と略記しています。

また，「1～3月期」，「4～6月期」，「7～9月期」，「10～12月期」をそれぞれ「Ⅰ期」，「Ⅱ期」，「Ⅲ期」，「Ⅳ期」と略記しています。

なお，平成31年・令和元年第Ⅱ四半期（4月～6月期）は「元年Ⅱ期」と表記しています。

3 指数値等の表示方法

（1）指数値は，暦年別及び四半期別に算出し，表示しています。

（2）暦年指数値及び前年比は，原指数によって算出し，表示しています。

（暦年指数値は，1～12月各月の平均指数値です。ただし，在庫指数は，年末の指数値です。）

（3）四半期指数値及び前期比は，季節調整済指数によって算出し，表示しています。

（四半期指数値は，期内各月の平均指数値です。ただし，在庫指数は，期末の指数値です。）

（4）各数値の掲載単位未満は，すべて四捨五入しています。